



たんまつを使うと、いろいろなじょうほうを友だちときょう有したり、まとめたことをわかりやすく発表したりすることができます。ここでは、たんまつを使ってきょう有したり、発表したりするときに知っておくべきことや気をつけるべきことについて学びます。

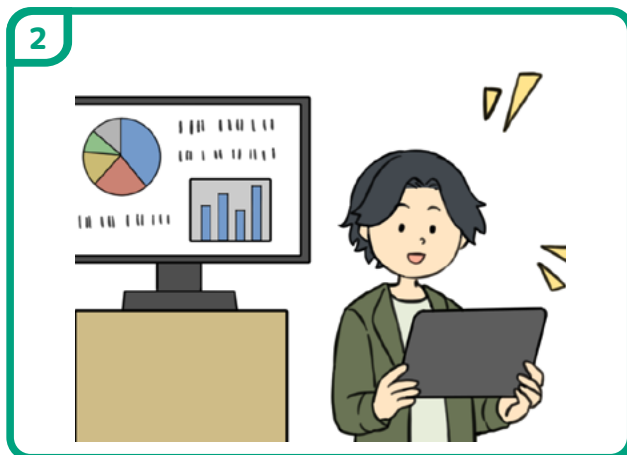
### さいしょにチェックしてみよう

- わたしは、たんまつを使って上手に発表できると思う
- わたしは、感想を具体的に伝えることができると思う
- わたしは、友だちの発表をきちんと聞いていると思う
- わたしは、聞き方をくふうして、相手の話を聞くことができると思う
- わたしは、自分の作品が勝手に書きこまれたとき、きちんと対おうできると思う
- わたしは、写真を見ることが出来る人のせってい方ほうがわかると思う

つか はっぴょう ようす  
たんまつを使った発表の様子です。クラスの前で発表しています。  
じょうず はっぴょう おも  
上手な発表だと思いうじゅんにならべてみましょう。



ずっとたんまつをみて発表している

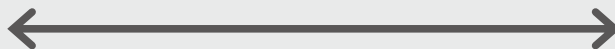


き聞いている人を見て発表している



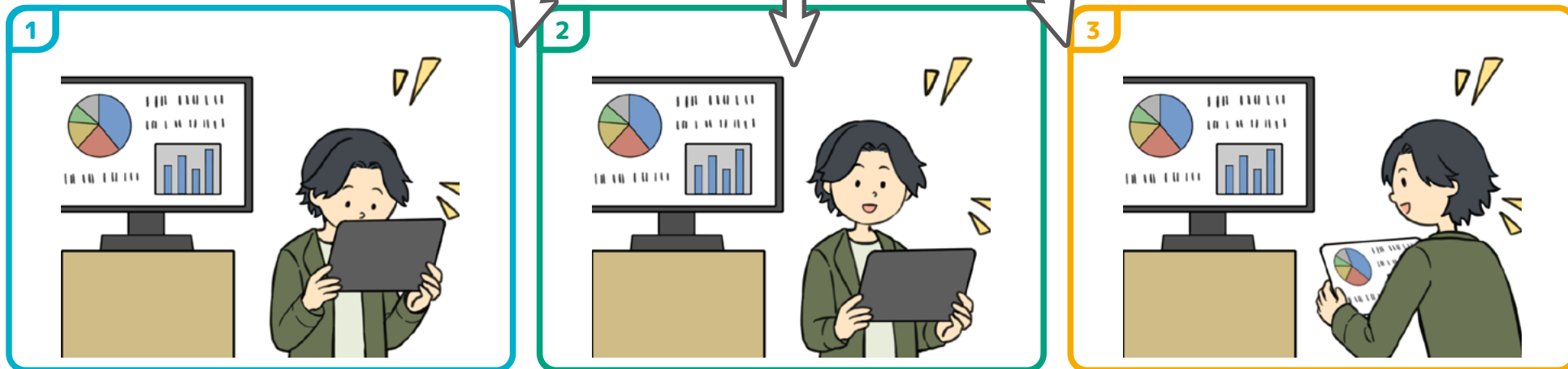
モニターをみて発表している

じょうず  
とても上手



じょうず  
上手ではない

とも  
友だちとくらべてみよう



## ★ スキルのポイント

たんまつやモニターを<sup>み</sup>ながら<sup>はな</sup>話してしまうと、どうしても<sup>こえ</sup>声<sup>まえ</sup>が前にとどきに<sup>き</sup>くくなります。できるだけ、<sup>き</sup>聞いている人<sup>ひと</sup>の方<sup>ほう</sup>を向<sup>む</sup>いて<sup>はっぴょう</sup>発表するとよいでしょう。

また、<sup>こえ</sup>声<sup>おお</sup>の大きさや<sup>はな</sup>話<sup>はや</sup>す速さなどもくふうしてみましよう。どのような<sup>こえ</sup>声<sup>おお</sup>の大きさや<sup>はな</sup>話<sup>はや</sup>す速さだと、<sup>き</sup>聞きやすい<sup>はっぴょう</sup>発表になるか、ためしてみましよう。

きゅう食しよく つくを作ってくれた人ひと むに向けて、今日きょうのきゅう食しよくのカレーの感想かんそうをつたえることになりました。

れい

今日きょうのきゅう食しよくは、おいしかったです。



上うえの感想かんそうを、よりよくつた伝わるように工夫くふうしてみましょう。  
どんなことをつけ加くわえると、よい感想かんそうになるでしょうか。

今日きょうのきゅう食しよくはおいしかったです。  
とくに、

## かい答れい

きょう 今日<sup>きょう</sup>のきゅう食<sup>しょく</sup>はおいしかったです。  
とくに、お肉<sup>にく</sup>がやわらかく、じゃがいも<sup>おお</sup>が大きく、ニンジン<sup>おお</sup>があまかったです。

とも  
友だちとくらべてみよう



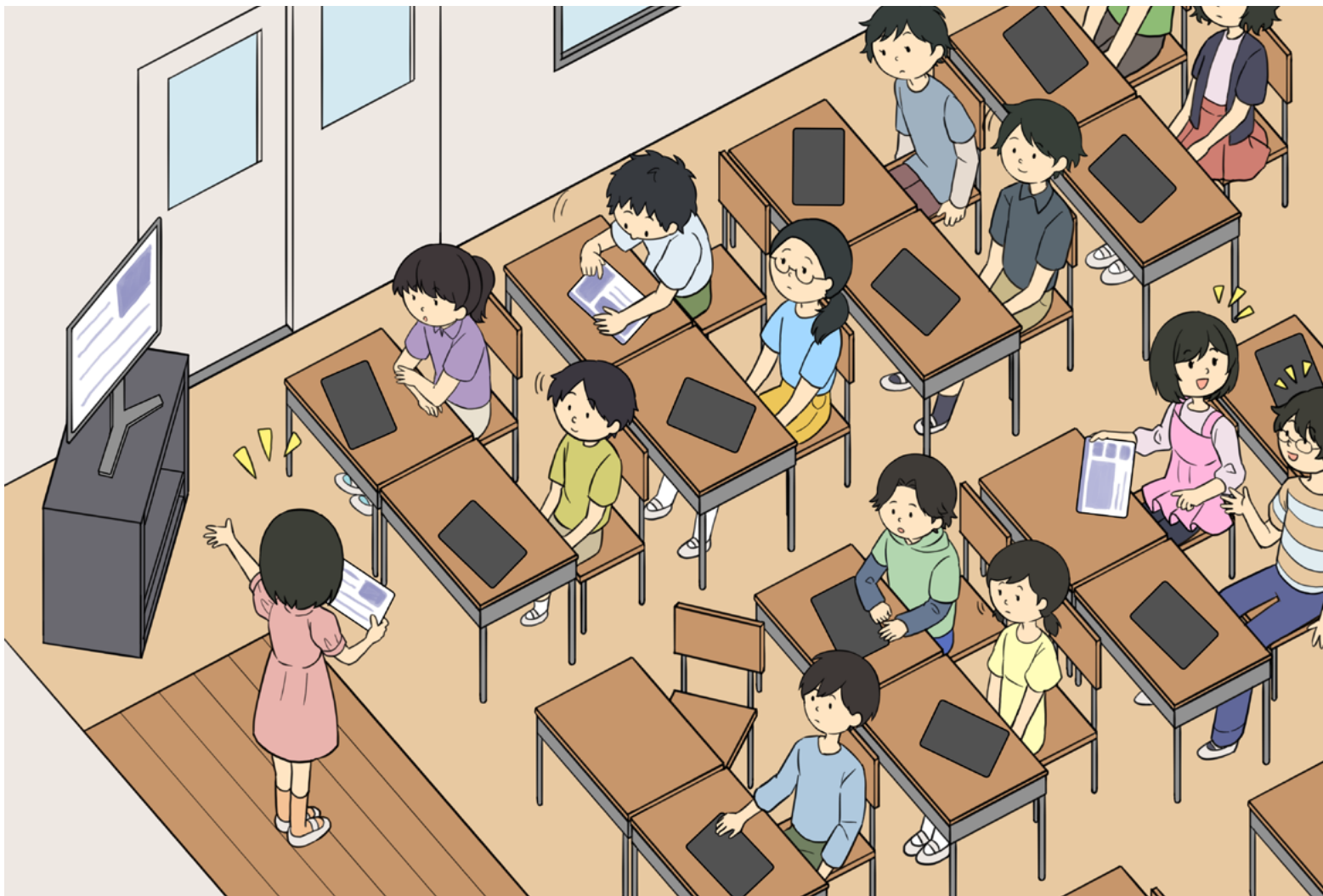
### ★ スキルのポイント

きゅう食<sup>しょく</sup>を作<sup>つく</sup>ってくれた人<sup>ひと</sup>は、どんなこと<sup>し</sup>を知<sup>し</sup>りたいでしょうか？

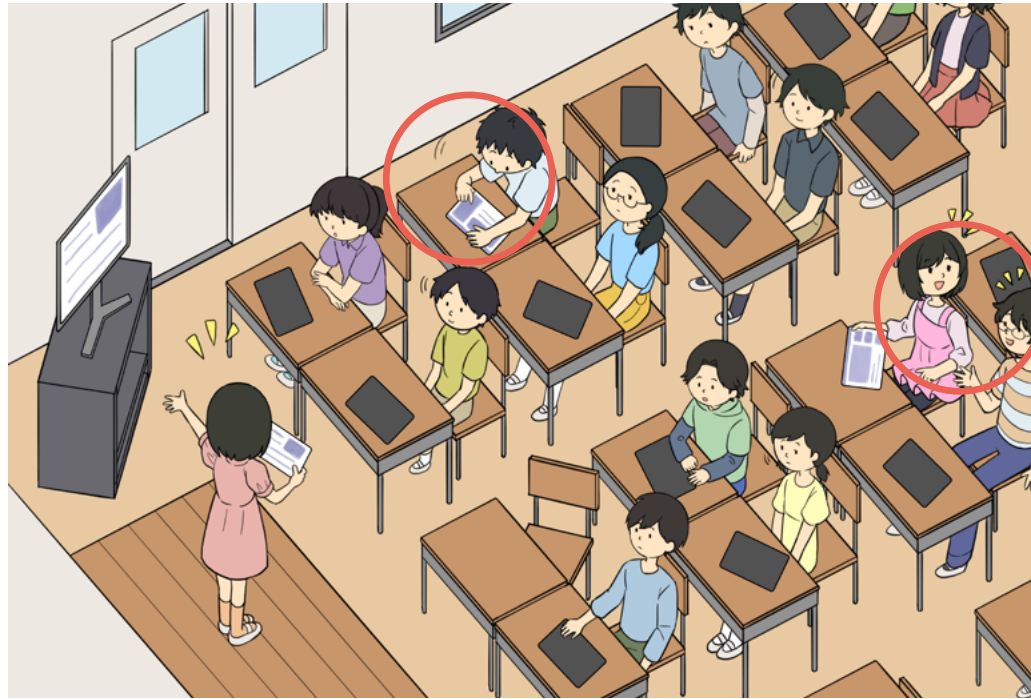
「おいしかった」だけでなく、カレー<sup>なん</sup>の何<sup>なん</sup>がおいしかったのか、具体<sup>ぐたい</sup>てきに知<sup>し</sup>りたいはずです。

かんそう  
感想<sup>かんそう</sup>をつたえるときは、理<sup>り</sup>ゆうを具体<sup>ぐたい</sup>てきにつたえてみましょう。

つぎ  
次のイラストで、**発表の聞き方**について気になるところに○をつけましょう。



## とう かい答れい



### ☆ スキルのポイント

とも はっぴょう  
友だちが発表をしているときに、きちんと聞くことができているでしょうか？  
とも はっぴょう  
友だちが発表をしているのに、たんまつをさわっていたり、とも はな  
友だちと話をしていたりしていることはありませんか？  
はっぴょうしゃ はな  
発表者が話しやすいように、き かんが  
聞くためのくふうも考えてみましょう。

ふたりひとくみとなり、つぎのテーマを相手に話してみましょう。

テーマ：すきなデザート

わたしがすきなデザートは、「〇〇」です。

なぜすきかというと、「〇〇」だからです。

おすすめのお店や商品は、「〇〇」のものです。

き ひと  
聞く人は、それぞれ①～③の方ほうで聞いてみましょう。



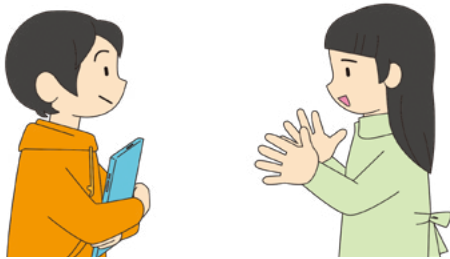
3つの聞き方をされたとき、話す人はそれぞれどのように感じましたか。



とも  
友だちとくらべてみよう

1

はなし ひと かお からだ  
話をしている人に顔も体も  
向けてうなづく



2

はなし ひと からだ む  
話をしている人に体を向けて、  
顔はみない



3

はなし ひと からだ かお  
話をしている人に体も顔も  
向けない



## ★ スキルのポイント

あいて はなし き  
相手の話を聞くときに、タブレットを見たままだったり、ちがうことをしていたりしながら聞いていたら、相手はど  
う感じるでしょうか。

いろいろな聞き方をためして、相手にどう感じるかを聞いてみましょう。



# かってか勝手に書きこまれたら

自分のつくった作品を、みんなが見られるように公開したところ、その作品に落書きをされてしまいました。あなたならどのように対おうしますか。  
次の3つの行動を「○ やった方がよい」「× やらない方がよい」にわけてみましょう。

1

くやしいので  
ほかひとの作品に  
落書きする

2

その落書きの様子を  
記しておく

3

落書きされたことを  
先生にそうだんする

○ やった方がよい **A**

**B** × やらない方がよい



せい  
正かい

○ やった方がよい **A**

2

らくが  
その落書きの様子を  
き  
記ろくしておく

3

らくが  
落書きされたことを  
せんせい  
先生にそうだんする

**B** × やらない方がよい

1

くやしいので  
ほか ひと さくひん  
他の人の作品に  
らくが  
落書きする

★ スキルのポイント

クラスの他の人の作品を自由に見ることができるのは、とてもべんりですが、なかには勝手に作品に書きこみをしたり、落書きをしたりする人もいます。そんなときは、まずはその落書きの様子を記ろくしましょう。

画面の様子を記ろくすることをスクリーンショットと言います。

そのスクリーンショットとともに先生にそうだんしましょう。



# だれが見ることができるのかな

つぎ せってい ばあい しゃしん み  
次のように設定されている場合、この写真はだれが見ることができるでしょうか。  
1つえらびましょう。



この写真を見ることができるユーザー

せんせい (かんにり者)

ねん くみ 2年1組

ねん くみ 3年1組

1

この写真をとった人しか  
み 見ることができない

2

ねん くみ ひと  
2年1組の人が  
み 見ることができる

3

ねん くみ ひと  
3年1組の人が  
み 見ることができる

せい  
正かい

2

ねん くみ ひと  
2年1組の人が  
み  
見ることができる



この写真しゃしんを見ることが出来るユーザー

せんせい (かんり者)

ねん くみ  
2年1組

ねん くみ  
3年1組

## ★ スキルのポイント

せってい  
設定をすることで、写真しゃしんを見ることが出来る人ひとをかんりしたり、せいげんしたりすることができます。

この場合は、アクセスできるユーザー（見ることが出来る人ひと）のチェックがせんせいとねん くみ はい  
2年1組の人だけがみ  
見ることが出来ます。



## まとめ

### じょうず つか 上手に使うために

たんまつ<sup>つか</sup>を使って「きょう有<sup>ゆう</sup>」や「発表<sup>はっぴょう</sup>」を行う<sup>おこな</sup>場合には、相手<sup>あいて</sup>のことをいしきするひつようがあります。どんな人<sup>ひと</sup>がこのじょうほう<sup>う</sup>を受けとるのかを想<sup>そう</sup>ぞうしながら、「どうすれば相手<sup>あいて</sup>につたわりやすいかな」ということを考え<sup>かんが</sup>、くふうしてみましよう。

### チェックしてみよう

- わたしは、たんまつ<sup>つか</sup>を使って上手<sup>じょうず</sup>に発表<sup>はっぴょう</sup>することができる
- わたしは、感想<sup>かんそう</sup>を具体的<sup>ぐたいてき</sup>に伝える<sup>つた</sup>ことができる
- わたしは、友達<sup>とも</sup>たちの発表<sup>はっぴょう</sup>をきちんと聞<sup>き</sup>くことができる
- わたしは、聞き方<sup>きかた</sup>をくふうして、相手<sup>あいて</sup>の話<sup>はなし</sup>を聞<sup>き</sup>くことができる
- わたしは、自分<sup>じぶん</sup>の作品<sup>さくひん</sup>に勝手<sup>かって</sup>に書<sup>か</sup>きこまれたとき、きちんと対<sup>たい</sup>応<sup>おう</sup>することができる
- わたしは、写真<sup>しゃしん</sup>を見<sup>み</sup>ることができる人<sup>ひと</sup>のせ<sup>ほう</sup>ってい方<sup>ほう</sup>をせ<sup>めい</sup>つ明<sup>めい</sup>することができる